



「銀座線新型車両導入完了・他線導入計画」編

東京メトロでは、2017年12月30日で浅草駅～上野駅間の開通90周年を迎える「地上に最も近い地下鉄」である銀座線のリニューアルを進めています。銀座線は東洋初の地下鉄として東京の街をつないできた歴史を大切にしながら、先端の機能を取り入れ発信する【伝統×先端の融合】を路線コンセプトとした上でリニューアルを実施しています。

車両のリニューアルについては、2012年4月から新型車両への更新を進め2017年3月に全編成への導入が完了するとともに新たな機能向上を図る改修工事を順次進めています。

今回は新型車両1000系の機能や改修状況と他線の新型車両導入計画について紹介いたします。

銀座線1000系のコンセプト

銀座線1000系は、東洋初の地下鉄である1000形のDNAを受け継ぐレモンイエローの車体デザインを採用する一方で、数々の最新技術を採用入れた、快適で独創性の高い車両となっています。

車体は、昭和2年の地下鉄開業当時から約40年間にわたり親しまれた旧1000形をモチーフとし、当時の車体色を再現しています。車内は、冷房能力を高めるとともに、連結面や座席横の仕切りの一部などに透明な強化ガラスを採用し、車内の快適性向上を図っています。また、消費電力の削減、乗り心地向上、走行騒音低減を図るため、最新技術を積極的に採用しています。



改修工事内容

銀座線1000系は2012年4月の初導入から、2017年3月の最後の導入まで約5年かけて全40編成が導入され、営業運転を開始しています。その間、新技術の搭載やお客様の快適性を向上させる様々な改修工事が行われています。

I 新技術の搭載

①非常用走行バッテリー

災害発生時等、停電によって列車が駅間に停車した場合でも、最寄駅まで走行可能となり、お客様に安全に避難いただけるよう、非常用走行バッテリーの搭載を進めています。

搭載車両数：25編成(2017年3月末現在)

銀座線：2018年4月全編成搭載完了予定

※丸ノ内線は新型車両導入に合わせて順次搭載を予定



【車両下に搭載された非常用走行バッテリー】



【電源供給イメージ】

II 快適性の向上

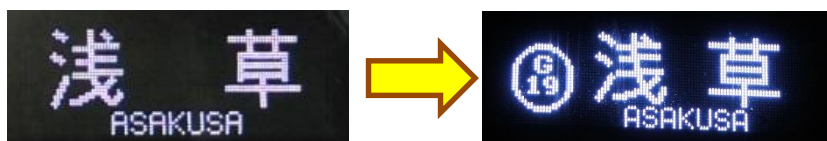
①車外行先表示器

従来の日本語+英語併記に加え、海外からお越しのお客様にも、より分かりやすい案内を提供するため、駅ナンバリングを追加しました。

銀座線：2017年3月全編成搭載完了

※丸ノ内線・日比谷線は新型車両導入に合わせて搭載

(丸ノ内線：2022年度完了、日比谷線2020年度完了)



【車外行先表示器(左:変更前、右:ナンバリング追加後)】

②車内ディスプレイ3画面化

もともと2画面だった車内ディスプレイを3画面にすることにより、多言語による運行情報の提供や天気予報、ニュースなどの情報を配信し、情報提供・ご案内の強化を図っています。

搭載車両数：15編成(2017年3月末現在)

銀座線：2019年2月全編成搭載完了予定

※丸ノ内線・日比谷線は新型車両導入に合わせて搭載予定

(丸ノ内線：2022年度完了、日比谷線2020年度完了)



【車内ディスプレイ3画面】

③車両内無料Wi-Fiの導入

東京メトロ全駅(一部管理委託駅を除く)の駅構内においてサービス提供を行っており、既に多くのご利用をいただいておりますが、2016年12月から、車両内での更なるサービス向上のため、車両内無料Wi-Fiサービスの導入を開始しました。

搭載車両数：5編成(2017年3月末現在)

銀座線：2020年度全編成搭載完了予定

※丸ノ内線・日比谷線は新型車両導入に合わせて搭載予定

(丸ノ内線：2022年度完了、日比谷線2020年度完了)



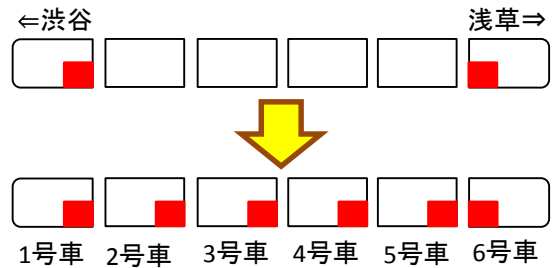
【Wi-Fi使用可能ステッカー(荷棚横)】

Ⅲ 車両内バリアフリー

① フリースペース

1000系導入開始当初の編成については両先頭車両にフリースペースを設置していましたが、車いすやベビーカーをご利用のお客様により安心してご利用いただけるよう全車両にフリースペースの設置を進めています。

設置車両数：13編成（2017年3月末現在）
銀座線：2022年度全編成設置完了予定



② 吊り手

混雑した車内でも吊り手につかまってお乗車いただけるよう、ドア付近や車内中ほどへの吊り手の増設を進めています。先日引退した01系では1編成あたり532個設置していた吊り手を、新型車両1000系導入では最大588個の吊り手を設置しています。車両を改修するタイミングで順次吊り手の増設を進めていきます。

特別仕様車両の導入

東京メトロではホームドアの導入を進めており、ホームドアを設置することによりその動作時間と乗降に伴う停車時間が増加することで、1往復あたりの所要時間が増加します。ホームドア設置後も現在の輸送力を保つためには列車の本数を2編成増備する必要がありました。（前身の01系が38編成に対して、後継車両の1000系は40編成の導入。）

2017年は地下鉄開業90周年ということもあり、お客様に楽しんでご乗車いただけるように、増備2編成を特別仕様車とすることになりました。



【外観】



【内観】

通常仕様車からの変更点として、外装は前灯を2灯から1灯に変更するなどして銀座線開業時の1000形のイメージに近づけたデザインといたしました。内装は、室内全体の配色変更、吊り手の形状変更等を行いました。特にこだわっているのが予備灯の設置です。この予備灯は1000形にも搭載していた機能で、ポイント通過時等車両への電源供給が一時的に停止するタイミングでの室内灯が消灯するとともに側面予備灯が点灯する様子を再現しています。現在は車両への電源供給が停止することがないため、通常運行時に予備灯が点灯することはないですが、今後、イベント列車等を運行させる時などにこの機能をお披露目する予定です。

全40編成中2編成がこのレトロなデザインの特別仕様車になっており、銀座線をご利用の際は5%の確率で特別仕様車両にご乗車いただけます。



【吊り手】



【予備灯（左：消灯時、右：点灯時）】

他線の車両更新について

銀座線では新型車両の導入が完了しましたが、他路線においても下表のとおり今年度以降順次新型車両の導入を続けていきます。また新型車両導入に合わせ非常用走行バッテリーを丸ノ内線に、曲線通過時の騒音・振動を軽減に大きな効果がある操舵台車を丸ノ内線と日比谷線に導入する計画です。

東京メトロでは新型車両の導入や既存車両の改修等を積極的に推進し、更なる安全性・快適性の向上に努めてまいります。



【新型車両（左：千代田線16000系、右：日比谷線13000系）】

路線名	車両名	導入初年度	2017.3月末までの導入数	2017年度導入数	総導入予定数	導入完了年度
千代田線	16000系	2010年度	33編成	4編成	37編成	2017年度
日比谷線	13000系	2016年度	2編成	15編成	44編成	2020年度
丸ノ内線	未定	2018年度予定	—	—	53編成	2022年度